

「英訳マンガから見る英語表現の一考察：『はたらく細胞』を事例として」（『新教育課程研究』第54号、令和7年1月）、1-61頁

「プロローグ」「1 人間の体の内部へ」「2 清水茜『はたらく細胞』と Cells at Work!」「3 細胞と細菌類の英語」「4 第1話 肺炎球菌」「エピローグ」の順で英語教材としての可能性について論じた。医療関係の英語が主となるが、赤球血や白球血、細菌などの擬人化されており、病原菌と白球血が闘う様子がファンタジーと戦隊ものが融合したような内容である。（A5）